

地域で励む資源回収や清掃活動が地球規模で考える素地を養う

文部科学大臣賞 鹿児島県 鹿児島市立西伊敷小学校

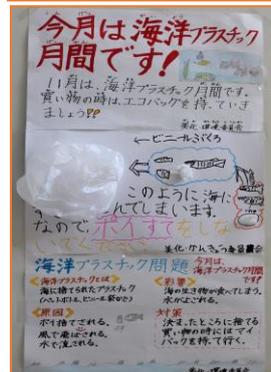
鹿児島のシンボルで、今も噴煙が上がる活火山、「桜島」。その勇姿を見晴らせる同校では、緑豊かなロケーションを生かした取り組みが活発に行われている。1974年の開校当初から地域を挙げて力を入れてきたリサイクル活動は、2007年に「学校版環境ISO認定校」に認定されてから加速。毎月第2週目を「環境を考える週間」に設定、児童会主導で、住民の協力を得てアルミ缶などの資源回収、再生紙の有効利用といった省資源・リサイクルに取り組む。回収した分別ごみは、空き缶つぶし、袋詰め、資源物の重量、本数の集計など、地道な作業が続くが、児童は「西伊敷小エコ活動」と名付けて、節電や節水とともに熱心に行っている。

その根源にあるのが、「アフガニスタンの子どもたちへランドセルを贈ろう！」プロジェクトだ。使わなくなったランドセルを、長年にわたり、アフガニスタンの子どもに贈っている同校では、6年生が総合的な学習の時間でそのしくみや意義について学んだ後、思い出の詰まったランドセルを送り出す。アルミ缶などの回収活動で得た収益金は、そのランドセルの送料に充てている。

こうした活動を通じ、自分たちの行う美化活動が人の役に立つことを体感した児童は、通学路のボランティア清掃にも励む。6年生の伝統的な取り組みのひとつとして、ほとんどの児童が毎朝7時前に登校し、進んで掃除を行っている。

通学路の見守り活動を長年続けている住民の南貞雄さんは、「子どもや先生たちが一生懸命に掃除している姿を目にすると、本当に頭が下がり、地域も頑張ろうという気持ちになります。学校とPTA・地域が協力しながら学校を盛り上げていくことが、ひいては地域を盛り上げることにつながることを日々感じます」と手応えを語る。学校があって地域があり、地域があって学校がある。南さんは、年々その思いを強くしている。

樹木に囲まれた豊かな環境下で、住民に見守られながら育んできた児童の環境意識は今、SDGsに向かう。地域での活動をベースに、地球規模で考える素地が着々と整っている。



鹿児島県 鹿児島市立西伊敷（にししいしき）小学校

学校長：石塚 宏志（いしつか こうじ）

児童数：335名(2020年11月末現在)

住所：鹿児島県鹿児島市西伊敷4-12-1

電話：099-220-8057

アクセス：JR「鹿児島」駅からクルマで約20分

上：桜島をのぞむ豊かな環境、2番目：6年間お世話になったランドセルを送り出す、3番目左：リサイクル活動、右：毎朝の通学路ボランティア清掃、下左：海から離れた同校で海ごみ問題に関心を持つ、右：活動をまとめて掲示